

平成28年度 リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議

会議録

日時：平成29年1月20日（金） 13時～13時45分

会場：ホテル日航奈良 天空の間

出席者

【会 長】

奈良市長 仲川げん

【副会長】

公益社団法人奈良市観光協会 会長 乾 昌弘

奈良商工会議所 副会頭 谷口 宗男

【会員】

春日大社 宮司 花山院 弘匡

元興寺 住職代理 梅尾 有道

西大寺 長老代理 笹尾 正道

奈良観光物産協会 会長 小鍛冶 正明

奈良観光物産製造卸組合 会長 前田 武

奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合奈良支部 支部長 下谷 幸司

奈良市自治連合会 金野 秀一

一般社団法人 奈良市商店街振興会 会長 正木 康雄

奈良商工会議所青年部 会長 出店 孝規

一般社団法人 奈良青年会議所 理事長代理 森 隆士

奈良大文字保存会 会長 小山 新造

株式会社 まちづくり奈良 代表取締役社長 松森 重博

薬師寺 管主代理 松久保 伽秀

【顧問】

奈良県議会議員 猪奥 美里 奈良市議会議員 北 良晃

奈良県議会議員 池田 慎久 奈良市議会議員 東久保 耕也

奈良県議会議員 大国 正博 奈良市議会議員 藤田 幸代

奈良県議会議員 荻田 義雄 奈良市議会議員観光文教委員会委員長 横井 雄一

奈良県議会議員 新谷 紘一

奈良県議会議員 中川 崇

【事務局】

観光経済部部長 長岡 伸考

観光経済部次長リニア推進課長事務取扱 山岡 利啓

観光経済部リニア推進課職員

平成28年度 リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議

日時：平成29年1月20日（金）

13：00～13：45

会場：ホテル日航奈良 天空の間

次 第

1 開 会

2 会長挨拶 奈良市長 仲川 げん

3 議 事

- (1) リニア中央新幹線事業の進捗と奈良県内における現状について
- (2) 奈良市の取組みと推進会議の活動について
- (3) リニア中央新幹線奈良駅設置推進決議等について

4 閉 会

(以下、議事内容)

1 開会

【司会：齊藤 雪乃】

皆様、お待たせいたしました。「平成28年度奈良市リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議」にお集りいただき、まことにありがとうございます。本日、司会を担当させていただきます齊藤雪乃と申します。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

ありがとうございます。この会議は、奈良市情報公開条例第29条の規定に基づき、原則、公開いたします。また、後日、会議録を作成しますので、録音や写真撮影など、ご了承くださいませようお願い申し上げます。会議内容につきましては、ホームページやツイッター等でも公開いたします。なお、本日の傍聴希望者は6名の方がいらっしゃいますので、傍聴を認めることといたします。ただいまより入室していただきます。仲川会長、よろしいでしょうか。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

はい、よろしくお願い致します。

(傍聴人入場)

【司会：齊藤 雪乃】

それでは、初めに、「リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議」の会長であります仲川奈良市長からご挨拶させていただきます。仲川会長、よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

【会長：奈良市長 仲川 げん】

皆様、本日は大変お忙しい中、「リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議」を開催いたしましたところ、公務ご多忙中にもかかわらず、たくさんの会員の皆様方にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

平素から、本市のリニア中間駅誘致に向けまして、皆様方に多大なご協力を賜っておりますことに感謝申し上げます。

さて、リニア中央新幹線につきましては、東京一名古屋間につきまして、既に名古屋駅の工事も着工がなされ、具体的なまちづくりのスケジュールに入ってきたところで

ございます。一方で、名古屋以西ということにつきましては、早晚決定をされますこのルート、そして駅の設置自治体、こういったところに大きな関心が集まる場所があります。

一方で、政府におきましても、昨年、財政投融资を活用いたしまして、計3兆円の資金をJR東海に融資をするということで、約8年前倒しが決定をされた場所でもございます。

本日、皆様の前に心配りをいたしております新幹線型のペットボトルにも、「2037」という数字を書いております。以前は「2045」という数字でございまして、当初から2045年というのを大きな目標として取り組んできた場所ではありますが、約8年前倒しが決定されたことにより、我々ももう目の前の具体的なものとして捉えることができるようになってきております。

一方で、県内におきましても、奈良市以外の自治体も誘致に依然として手を挙げておられるという状況もあり、さまざまな状況判断の中で、やはり奈良の観光の玄関口である奈良市に中間駅を誘致すべきという我々のこれまでの主張をより声を大きくあげて、そして市民、県民を巻き込みながら、大きなうねりをつくっていかねばならない時期に来ていると強く認識をいたしております。

行政はもちろんでありますけれども、官民連携、また本市におきましては、社寺の皆様方など、観光に携わるたくさんの方々、また市民の代表の皆様方と手を取り合いまして、2037年の事業開業に向けまして、さらに力を込めて活動を展開していきたいと考えております。

本日も、推進会議後「リニア奈良駅を考えるシンポジウム」を開催いたしますけれども、今後もさまざまな取り組みを展開してまいりたいと考えておりますので、皆様方のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げまして、一言、開会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【司会：齊藤 雪乃】

仲川会長、ありがとうございます。次に、今回から新たにご就任いただきました皆様方をご紹介します。

会員といたしまして、公益社団法人奈良市観光協会会長、本会議の副会長であります乾昌弘様でございます。

【公益社団法人奈良市観光協会 会長 乾 昌弘】

乾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会：齊藤 雪乃】

同じく、奈良商工会議所副会頭で、本会議の副会長、谷口宗男様でございます

【奈良商工会議所 副会頭 谷口 宗男】

谷口でございます。よろしくお願いいたします。

【司会：齊藤 雪乃】

続きまして、顧問といたしまして、奈良市議会観光文教委員会委員長、横井雄一様でございます。

【奈良市議会議員観光文教委員会委員長 横井 雄一】

横井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会：齊藤 雪乃】

以上でございます。

ここで、本日の予定をお知らせさせていただきます。この推進会議は、午後1時45分までです。引き続きまして、午後2時から、「リニア奈良駅を考えるシンポジウム」を4階、飛天の間で開催します。当シンポジウムでは、まず明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長・教授の市川宏雄先生による基調講演がございます。そして、当推進会議の会員としてご出席いただいております花山院弘匡春日大社宮司、市川先生、仲川市長によるパネルディスカッション等が行われますので、ぜひご参加ください。なお、本会議に市川先生もご参加いただいております。ご報告させていただきます。それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。ここからの議事の進行は仲川会長にお願いいたします。

3 議事

【会長：奈良市長 仲川 げん】

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきたいと思います。

(1) リニア中央新幹線事業の進捗と奈良県内における現状について

【会長：奈良市長 仲川 げん】

それでは、まず、（１）リニア中央新幹線事業の進捗と奈良県内における現状について、事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】

それでは、報告させていただきます。

お手元にごございます資料１をごらんください。「リニア中央新幹線事業の進捗状況について」になります。１．これまでの経緯として、リニアの事業については、昭和48年に全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画がつけられました。その後、平成23年に同法に基づく整備計画がつけられ、実現に向け動き始めました。品川－名古屋間においては、３年間に及ぶ環境影響評価を経て、駅位置・ルートが決定され、平成26年より、工事が現在進行中でございます。

一方、名古屋－大阪間についても、昨年6月、首相により、財政投融资の活用により、国がＪＲ東海を支援することが表明され、大阪延伸の最大８年前倒しを図ることとなりました。こちらにつきましては、２をごらんください。

従来、リニアについてはＪＲ東海が単独で事業を実施し、東京－名古屋間開業後の８年後に名古屋以西の工事に着手することとなっており、その結果、大阪延伸は2045年となる予定でした。これでは時間がかかり過ぎるということで、このたび決定されたのが、国が財政投融资の制度を活用し、ＪＲ東海に約３兆円の融資を行い、開業の前倒しを図るというものです。この結果、最短で2037年の開業となり、当初の案より最大８年前倒しされることとなりました。

こうした状況を受け、昨今、ＪＲ東海の反応として、名古屋－大阪間は計画通り、奈良市附近ルートを前提とすること、そして大阪での終着駅は新大阪を想定しているといったこと等が表明されております。

次に、資料２をごらんください。こちらは「奈良県内におけるリニア誘致の状況」です。１．奈良県内における経緯です。昭和54年には既に、リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会が設立され、当時から現在に至るまで、奈良市長が副会長を務めています。平成元年には同期成同盟会にて、奈良市内に停車駅を設置する旨が決議されています。現在、リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会の決議では駅位置について「奈良市附近」と表記されていますが、当時から平成20年までは「奈良市内」と表記されていました。また、同年12月には、奈良県議会、それから奈良市議会でも同様に決議されています。

こうした状況から、本来は奈良県内が一丸となって、「リニア奈良市駅」の実現を目指すべきであるというのが我々の考え方ですが、平成23年に駅設置費用をJR東海自身が負担すると公表して以降、他都市も誘致に名乗りを挙げているという状況です。

こうした状況において、本市単独でも誘致活動を行う必要が生まれ、平成25年5月に、「リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議」、本日開催のこの推進会議を設立しております。また、同年12月には、『「奈良県にリニアを！」の会』が結成されています。

こうした中で、2. 奈良県の動きですけれども、基本的な立ち位置として、奈良県のほうは県内での市町村の誘致争いには中立の立場を表明されています。また、大阪延伸8年前倒しについては、県としては実現には環境影響評価実施の前倒しも必要であるという考えから、現在、県独自で生態系調査を実施しています。

また、最近、話題に上っているのは、北陸新幹線とリニアとの接続についてです。奈良県の荒井知事により、京都から新大阪へ向かう北陸新幹線とは別に、新幹線の路線を京都から南下させ、リニア奈良市附近駅と接続、関西国際空港を経由し、四国新幹線と接続させる構想が表明されています。

また、県内他都市の状況として、3. 『「奈良県にリニアを！」の会』が大和郡山市への駅設置を支持しておられ、樫原市長が会長を務めておられます。県内35市町村、19県議会議員で構成されています。過去3回、奈良県知事へ提言書を提出したほか、平成26年には同会の提言に基づき、県内32市町村議会で、大和郡山市に中間駅を設置すべきという決議がなされ、同会から奈良県知事へ提出されています。

以上が事業の進捗と奈良県内における現状についての報告となります。

名古屋－大阪間の事業につきまして、今後、大きく変化する可能性もございます。事務局として引き続き情報収集に努め、県との連絡を密にして、状況を注視していきたいと思っております。

事務局からは以上です。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。それでは、まずリニア中央新幹線の事業全体の今の最新情報、進捗ということと、県内における現状について報告がございました。奈良市の取り組みというのは、次の2つ目の議題でございますので、それは後ほどに置いておきまして、全体の事業の進捗、また県の動き等々につきまして、皆様からご意見等ございましたら、担当者がマイクをお持ちいたしますので、よろしく願いいたします。

では、新谷先生、お願いします。

【奈良県議会議員 新谷 紘一】

今のご報告にもありましたように、過去の計画よりも、約8年完成が早まってきていますね。私はいわゆる大深度法を活用し、JR奈良駅から近鉄奈良駅のあたりの地下に駅位置を決定すべきであると考えます。奈良市駅実現のため、奈良県選出の高市総務大臣をはじめ、関係の皆さん方にも協力してもらうことで、よりいっそう早期に開業を実現することは可能だと思います。駅位置については、JR東海が決定権を持っている状況ですが、ぜひとも仲川会長のおっしゃるように、東大寺や春日大社をはじめ、優秀な文化遺産を有する奈良県の国際観光県としての立場から、三重－奈良ルートの早期決定に向けもっと強力に活動していきたい。奈良市駅実現のため、京都にも協力をしてもらおうという方法を考えなければならないのではないかと考えております。皆さん方のご意見をまた聞いてください。

以上です。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。

関連をしたようなご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。では、荻田先生、お願いいたします。

【奈良県議会議員 荻田 義雄】

県議会の荻田でございます。よろしくお願いいたします。

自民党、公明党による国会議員のリニア中央新幹線整備促進、特に名古屋から新大阪までの早期開業に向けた議員連盟がございます。奈良県知事もおっしゃるように、京都が誘致活動に積極的であるという状況から、三重県、奈良県、大阪府、3府県が奈良を通るようにぜひともお願いしたいと思います。

私どもも自民党大阪府連、あるいは自民党の超電導リニア鉄道に関する特別委員会の竹本直一委員長にも、この前も「やっぱり奈良市附近をぜひお願いしますよ」ということで、私自身、話をいたしました。援護射撃をぜひお願いしたい。そして、川崎二郎代議士をはじめ三重県の関係者にもご協力をいただき、三重県、奈良県、大阪府が一つのルートとして、手を携えて京都に対峙するような形で頑張っていきたいと思っております。これが一つであります。

また、奈良県知事も大和郡山にというような話をされていた時期もありますけれども、私はJR東海自身が、費用や技術、環境の保全等の観点で、リニア中間駅はどの場所

がいいんだということをお決めになることは、それは当然のことだろうと思います。

私は、昭和48年当時からの過程や色々なことを見てみますと、「奈良市附近」と明記をした箇所づけは、やはり「奈良市」ではないのかと思っています。本日、公明党の幹事長もご出席されていますけれども、議員連盟でも一生懸命やっけていただいています。私どももぜひひとつ、その意に沿って、8年前倒し、あるいはより早期に開業に向け頑張ってまいりたいと思います。

以上です。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。両先生方からいただいたご意見、まさに私も同感でございます。さらにペースを速めようということについては、なかなか難しい注文のところもあるかもしれませんが、名古屋が2027年ということで、今から10年後、そして大阪までが2037年ということで、ちょうど今から20年後ということで、10年後の名古屋、20年後の大阪ということが具体的に射程距離に入ってきている状況だと思います。県におかれましても、独自の環境アセスをされるというようなことも伺っておりますが、市としても、まさにここが長年の誘致活動の正念場だと、そういう気持ちをしかりと持って、特に市民の皆様方の積極的な巻き込みにぜひ取り組んでいきたいというふうに思っております。

このあたりにつきまして、もしよろしければ、次に本市の取り組みというところもごございますので、そちらのほうの報告に入らせていただければと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

(2) 奈良市の取り組みと推進会議の活動について

【会長：奈良市長 仲川 げん】

そうしましたら、事務局のほうから、(2)「奈良市の取り組みと推進会議の活動について」をお願いいたします。

【事務局】

資料3「奈良市の取り組みについて」をごらんください。最近の主な活動についてお話しいたします。

1. 国・県・JR東海等への関係機関への要望活動の強化です。昨年度採択されました決議や要望書について、奈良県知事に対しては、市長と推進会議会員が、国に対

しては国土交通省を市長が直接訪問し、要望活動を実施しています。また、リニア推進課職員のほうでも、国会議員やＪＲ東海、各政党の県事務所を訪問し、要望活動を行っています。その他、総理大臣、官房長官、リニア沿線自治体の知事、市長、県内の市町村長等には書類等を送付しております。

次に、ＰＲ活動の一環として、２．「リニー君&りにまね」リニア沿線都市ツアーの実施です。奈良市のリニアＰＲキャラクターである「リニー君&りにまね」がリニア沿線の各都市を訪問し、ＰＲと動画撮影を行いました。結果として、各地でテレビ・新聞等のメディアで取り上げられ、沿線自治体との交流も行うことができました。また、ゆるキャラグランプリでは大きく順位がアップし、奈良県内の順位ではございますが、奈良県で見事１位を勝ち取りました。

次に３．その他住民へのＰＲ活動として、まず、「奈良市リニアファン倶楽部」の部員募集を行っております。また、りにまねの幼稚園・保育園訪問、こちらは今年度より奈良市外でも実施しています。さらに、横断幕・ポスター等広告の掲示、ＰＲグッズの作成配布といった活動に加え、庁外のイベントにも参加しております。

次に、資料４「推進会議の活動について」をごらんください。

１．推進会議開催意義でございます。

①奈良市のリニア新駅誘致に向けた決意の継続的な意思表示及び情報提供。

②市役所のみではなく、官民一体、奈良市一丸となった意見表明。

③各会員の人脈を含む社会的影響力によるＪＲ東海、国土交通省、奈良県知事、県内首長、その他関係者へのロビー活動の強化。

④市役所にはない視点からの意見抽出（住民・民間企業・社寺等としての意見）。

⑤各従業員、観光客等、多岐にわたる対象者への啓発活動。

といったことが挙げられます。

次に、２．今後の推進会議、活動方針についてです。

①奈良県内における要望活動の強化です。

先ほど申しましたように、ＪＲ東海社長による奈良ルートの表明、大阪延伸最大８年前倒しの決定といった状況から、今後、より奈良県内での活動が重要となってくると考えられます。これまで県内においては、奈良県知事への要望に市長とともに、副会長または会員の皆様にご参加いただいていたのですが、要望活動強化案として、これまで書類送付のみであった奈良県議会、県内の市町村長、奈良県の期成同盟会の会員団体に対しても直接面談し、我々の思いを伝えていきたいと思っております。

次に、②住民へのＰＲ強化です。

リニア誘致の実現には、やはり地元の盛り上がり、リニアに期待する思いが重要です。

各会員の組織体制の規模、内容に合わせた形で、それぞれPR活動の継続強化を図ることとしたいと思います。

具体的な活動としては、昨年度、会員へのアンケート調査を実施いたしまして、推進会議で決定した内容として、まず市内会員施設にポスターの掲示、PRグッズの配布、こちらは必要部数を調査の上、既に皆様に配布済みでございます。

また、会の構成員やお客さんへの「奈良市リニアファン倶楽部」の入部促進。ファン倶楽部については、団体会員というものを設けているのですが、推進会議の会員様のうち、個人で入部されている方は多数いらっしゃいますが、団体会員は今のところ、23団体あるうち、3団体のみ入部になっています。ぜひファン倶楽部の団体会員としてもご入部いただきたいと思います。そして、フェイスブック、ツイッター上でのPR、ホームページ上のPR、会員様のイベントでPRグッズ、リニア誘致キャラクターの活用、こういった活動をより強化していきたいと思っております。

最後に3. 今後のスケジュールです。

平成29年2月1日（水）、荒井正吾奈良県知事、そして先ほど申し上げました要望活動強化の一環として、乾浩之奈良県議会建設委員会委員長へ要望活動を予定しています。なお、乾委員長には、県議会議長の代理としてご対応いただきます。仲川市長とともに、乾副会長、谷口副会長にご同行いただく予定ですので、よろしく願いいたします。

次に、平成29年2月26日（日）、イオンモール高の原にてPRイベント「リニアフェスタinイオンモール高の原」を開催予定です。皆様、ぜひご参加いただきたいと思います。また、チラシ等の配布予定でございますので、ぜひご協力いただきたいと思います。

また、その他関係者への要望活動につきましても、今後、事務局にて調整の上、実施していきたいと思っております。日程確定次第、必要に応じまして参加の可否を照会させていただく場合がございますので、よろしく願いいたします。

事務局からの報告は以上です。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。

先の話ということで、関係ないと思われる方が1人でもおられると、やっぱり機運の醸成というところにはつながっていきませんので、市のほうでも特にリニア世代という次世代の若い方々、子供さんたちに対しての啓発やPRというところに特に力を入れております。ただ、まだまだPRが十分ではないというふうにも認識をしております。

して、この点についてはさらに強化をしていきたいというふうに思っております。

それでは、ただいまの奈良市としての取り組み、また推進会議としての活動につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

それでは、中川先生、お願いします。

【奈良県議会議員 中川 崇】

奈良市の啓発活動についての資料を読ませていただいたんですけども、駅の場所については、奈良市から2カ所提示していると理解しております。

1つ目は近鉄奈良駅及びJR奈良駅の附近、2つ目としてJR平城山駅の附近と理解をしておるんですけども、それは変わっていないのでしょうか。それがもし変わっていないのであれば、その2つの駅の場所というのが、どの程度の縛りを持っているのか、会長のお考えをお聞かせください。

以上です。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。駅の場所自体は、JR東海さんが専決的に決められるというのは大前提といたしまして、一方で地元の誘致自治体としては、具体的な候補案をお示しすることも、誘致をよりスムーズにしていく上では一つのバックアップ材料になるのではないかと考えております。

当初からご案内のように、JR平城山駅周辺というのは、計画当初の昭和48年ごろから、そういうお話が県のほうでもずっとなされていたという経緯がございますので、そういう意味では最も有力な候補地の一つであろうというふうに認識をいたしております。

一方で、もう一カ所のJR奈良駅、もしくは近鉄奈良駅との中間点あたりということについては、これは過去からも、JR奈良駅と近鉄奈良駅が離れているということのデメリットが指摘されてきたところもありますので、両方を結節するあたりに、例えば地下に駅を建設することができないだろうかという考えから、候補に挙げさせていただいております。どちらも技術工法的には不可能ではないのではないかと考えておりますが、地下駅とするか、地上駅とするかということの差は投資額にそのまま直結をいたしますので、このあたりは経営判断ということも含めて、JR東海さんのほうが方向づけをされるのだらうと考えております。そうした状況において、我々としても市のほうでどちらか一方に絞ってしまうというよりは、多様な可能性をお示したうえで、中で、最大限JR東海さんにアピールをしていくため、両方を挙げさせていた

だいております。

ほか、いかがでございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

(3) リニア中央新幹線奈良駅設置推進決議等について

【会長：奈良市長 仲川 げん】

それでは、続きまして、(3)「リニア中央新幹線奈良駅設置推進決議等について」のほうに移らせていただきたいと思います。

事務局から報告をお願いいたします。

【観光経済部次長リニア推進課長事務取扱 山岡 利啓】

失礼いたします。リニア推進課長の山岡でございます。よろしくお願いたします。お手元でございますリニア中央新幹線奈良駅設置推進決議(案)及び知事への要望書(案)に関しましては、事前に会員、顧問の皆様にご意見をいただいた上で作成しております。貴重なご意見、ありがとうございました。

いただきましたご意見をもとに、要望書(案)につきましては原案どおり、決議(案)につきましては、下記の2に、「大規模災害等発生時のリスク分散化のため」という文言を加えさせていただいております。

それでは、決議(案)をごらんください。読み上げさせていただきます。

決 議 (案)

リニア中央新幹線は、日本の三大都市圏を約1時間で結び、巨大経済圏「スーパー・メガリージョン」を形成する、我が国の将来にとっても極めて重要な国家的プロジェクトである。平成28年11月、改正鉄道・運輸機構法が成立し、政府は鉄道建設・運輸施設整備支援機構を通じ、計3兆円の資金をJR東海に融資することで、リニア中央新幹線全線開業の最大8年前倒しを支援することとなった。

この決定に関し、我々は、全国新幹線鉄道整備法に基づく昭和48年の基本計画及び平成23年の整備計画における主要な経過地「奈良市附近」の記載、平成元年の奈良県議会及び奈良市議会における「奈良市に停車駅を設置する」旨の決議に基づく事実上の中間駅設置予定地として大いに歓迎するとともに、さらなる早期全線開業実現を期待する。

我々は、奈良県民長年の悲願であるリニア中央新幹線の早期全線開業及び奈良市へ

の中間駅設置の実現のため、引き続き官民一体となり強力な運動を展開するとともに、関係機関に対し、下記について早急に適切な措置を講じられるよう強く要望する。

記

- 1 国土強靱化、地方創生回廊の実現に向け、より一層早期にリニア中央新幹線の東京－大阪間の全線開業を行うこと。
- 2 リニア中央新幹線の直進性を確保しつつ、大規模災害等発生時のリスク分散化のため、東海道新幹線のリダンダンシー機能を備える「奈良市」を経由するルートとすること。
- 3 世界遺産「古都奈良の文化財」を有し、年間約1,500万人が訪れる日本屈指の観光地であり、乗降客にとって利用価値が高く、県下最大の鉄道需要を誇る県都「奈良市」に中間駅を設置すること。

以上決議する。

平成29年1月20日

リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議会長

奈良市長 仲川 げん

なお、この決議につきましては、この後のシンポジウムにて公開の予定でございます。続きまして、知事への要望書（案）をごらんください。読み上げさせていただきます。

平成 29 年 2 月 1 日

奈良県知事 荒井 正吾様

リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議会長

奈良市長 仲川 げん

リニア奈良県駅設置に関する要望書（案）

平成29年1月20日、リニア新駅の奈良市内への設置実現に向け、県内社寺及び経済団体等の会員で構成するリニア中央新幹線奈良駅設置推進会議により、別紙のとおり、決議を採択いたしました。

リニア中央新幹線の経過地及び駅位置の決定は、奈良県の将来にとっても大きな影響を及ぼします。全国新幹線鉄道整備法に基づく昭和48年の基本計画及び平成23年の整備計画における主要な経過地「奈良市附近」という記載、平成元年の奈良県議会及び奈良市議会における「奈良市に停車駅を設置する」という議決といった歴史的経緯に加え、以下の事実からも、奈良市がリニア新駅設置に最適な地であるといえます。

(1) 県都として県内の政治・経済・文化の中心地であり、各種研究会・学術会議・その他イベント開催等についても、利用者にとって最も利便性が高いこと。

(2) 複数の世界遺産をはじめとする県下随一の観光資源と知名度を有し、年間約1,500万人の観光客が訪れる国際文化観光都市であること。

(3) 県下最大の鉄道乗降者数を誇り、鉄道のみならず自動車道においても周辺他都市とのアクセス性にも優れている奈良県随一の交通結節点であり、最も交通利便性が高いこと。

こうした現状に加え、奈良市内では、ホテルを核とした「にぎわいと交流のまちづくりプロジェクト」、奈良公園・平城宮跡歴史公園周辺の整備等の「大宮通プロジェクト」をはじめ、リニアにふさわしい未来のまちづくりが官民一体となって進行しています。集客効果、利用者の利便性、交通結節機能が県内及び周辺地域最大であり、未来に向け大きな可能性を持つ奈良市へのリニア新駅設置実現が、県全体の発展に大きく寄与することは間違いありません。

貴職におかれましては、奈良県民長年の悲願であるリニア中央新幹線新駅の奈良市内への設置実現に向け、引き続きご尽力いただきますよう、強く要望いたします。

以上でございます。

【会長：奈良市長 仲川 げん】

ありがとうございます。

それでは、本日のこの推進会議の決議（案）、それから後日、荒井奈良県知事及び奈良県議会のほうにお持ちをさせていただき要望書（案）、この両方の原案をご披露させていただきました。この両案につきましてご意見等ございましたら、お願いいたします。

この内容で承認をさせていただきまして、よろしゅうございますでしょうか。
皆様方の拍手をもって、ご承認をいただければ幸いです。

(拍手)

【会長：奈良市長 仲川 げん】

まことにありがとうございます。

それでは、この決議、そして要望書をもとに、リニア中央新幹線の奈良駅誘致に向けまして、各方面へもロビー活動を展開してまいりたいと考えております。

本日は大変限られた時間でしたが、皆様方と意見交換をさせていただきまして、大変ありがたく思っております。先ほど申し上げましたように、まさにこれからしっかりと進めていかなければならない時期に差しかかっていると認識をいたしております。まだまだ市の取り組みも十分ではないという認識も持っておりますので、特に県内で合意形成をいかに図っていくかということについては、さらなる取り組みが必要だと考えております。引き続き、会員の皆様方のご支援とご協力を賜りまして、何としましても20年後には、奈良市で駅が確実に竣工できる、そういう状況をつくってまいりたいと考えておりますので、今後とも引き続きご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

それでは、進行を事務局のほうに返させていただきます。

4 閉会

【司会：齊藤 雪乃】

以上をもちまして、「平成28年度奈良市リニア中央新幹線奈良駅設置推進会議」を終了いたします。

午後2時からのシンポジウムにご参加いただく皆様は、4階、飛天の間へお越しください。

なお、会員の皆様には会員席を、顧問の皆様には県議会議員席、市議会議員席をご用意しておりますので、そちらにご着席ください。

また、シンポジウムの最後にシュプレヒコールを予定しております。会員、顧問の皆様は全員舞台にご登壇いただきますようお願いいたします。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(拍手)

(以上)